

(様式2)

令和2 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102010		
法人名	社会福祉法人 仁成福祉協会		
事業所名	グループホーム しんせい		
所在地	新潟市江南区曾川甲1333番地1		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年9月11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 特別養護老人ホームに併設しており、現在はコロナウイルス感染防止のため中止となっていますが誕生会・納涼祭など、グループホームだけではできない事も実施しています。
2. 口腔ケアに力を入れ、誤嚥性肺炎の予防や毎日美味しく食事が出来るよう、訪問歯科の先生の支援を受けています。
3. 現在はコロナウイルス感染防止のため行っていませんが、レクリエーション・行事では様々なボランティアさんの協力を得て、外部の人たちと接点を持つ良い機会となっています。
4. 職員のスキルアップを支援するため、施設内外の研修に積極的に参加しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人の特別養護老人ホームに併設しており、火災や災害などの緊急時には特別養護老人ホームへ避難ができ、行事や職員研修なども合同で行っている。コロナ禍で外出ができない状況であるが、敷地内や併設の特別養護老人ホーム内を散歩できる空間としてうまく活用している。

事業所は口腔ケアに力を入れており、利用者の日々の口腔ケアはもちろん、定期的に訪問歯科診療による口腔ケアを受けている。食事は併設施設の管理栄養士の意見を取り入れてメニューが作られており、訪問当日の食事内容も野菜を数種類使用して、味だけでなく噛んで楽しめるメニューとなっていた。

個々の利用者の意向を生活歴から把握し、漠然とした目標でなく、より具体的に実現に向けて達成できる目標とし、達成のための計画を立て、職員全員で達成に向け支援を行っている。

また、事業所は地域との交流にも力を入れており、地域の小学校が授業の一環として行う事業所訪問を毎年受け入れている。小学校に配置されているコーディネーターから地域の協議会が行う催し物を案内してもらって利用者に参加したり、小学校の文化祭に利用者の作品を展示してもらい、見学に文化祭に出かけるなどの交流も行っている。ボランティアの受け入れにも積極的であり、長年絵手紙の作成指導をしてもらっていた方にコロナ禍で今年は事業所に来てもらえないため、職員と利用者でこれまでの指導を活かして絵手紙を作成し、ボランティアや面会に来てもらえない家族へ暑中お見舞いを送るなど、交流を図る工夫を行っている。絵手紙のボランティアからはマスクを使用する機会が増えるだろうと手作りマスクが届き、通院時に使用している。

## 自己評価および外部評価結果

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をそれぞれが再確認し実現に向けて努力している。毎年度末に全員で基本理念の見直しをしている。	理念は開設時に作成したものであり、利用者から書いてもらった理念を玄関に掲示するとともに、事務所内にも掲示している。毎年、ミーティングで振り返る機会を持ち、具体的ケアや地域との関係性について共有し、実践につなげている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染防止のため中止しているが、地域交流会「いきいきサロン」や地域の茶の間、地域の資源回収に参加している。自治会の方々から運営推進会議に参加して頂いている。また、向かいの小学校の文化祭にも招待してもらっている。コーディネーターさんより地域の行事カレンダーを持参してもらっている。民生委員さんから地域の茶の間を紹介していただいた。	積極的に地域との交流を行っており、小学校の文化祭に利用者の作品を展示したり、演奏会へ招待してもらい交流をしている。移転した消防署の職員とも散歩時に挨拶を交わしたり、地域包括支援センターを介して地域の方に事業所の見学会を数回行い交流を行ってきた。毎年、年末には地域のボランティア等の方をクリスマス会に招待し、利用者と一緒に楽しんでもらう機会としている。今年は暑中お見舞いの絵手紙を作成し、お世話になった方に送った。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事・交流会に参加することで情報発信を行っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの現状報告を行い意見を頂いている。また、利用者の代表の方にも参加してもらっている。その内容は玄関に置き、来園者がいつでも閲覧できるようにしている。不参加のご家族には議事録と報告書を郵送している。現在はコロナウイルス感染防止のため開催は中止、報告書を郵送している。	現在はコロナウイルス感染防止のため一時中止しているが、運営推進会議は2ヶ月ごとに行ってきた。避難訓練に合わせて会議を行い、訓練にもメンバーの参加を得て意見を聞いて活かしたり、地域住民のグループホームについての理解が十分ではないとの意見から、地域包括支援センターからの助言を得て、見学会を計画し実施することによって地域住民と利用者との交流に活かすことができた。コロナ禍の現在は、代替策として事業所の報告書とアンケートをメンバーに郵送しその結果を集計してお知らせしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員より運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。市の介護相談員の訪問時に意見交換している。	市には電話やファックスで問い合わせを行っている。また、生活保護課の担当者ともこまめにやり取りをして協力関係を築いている。地域包括支援センター主催の研修会に参加したり、事業所の勉強会の講師を派遣依頼するなど、関係づくりに努めている。	

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人独自のマニュアルを職員全員に配布しており、活用している。施設内外の研修や学習会に参加し、部会等でも意識付けるように取り組んでいる。	毎年、併設の特別養護老人ホームで行われる研修会に職員が交代で参加し、事業所内で復命講習をしている。玄関はチャイムで人の出入りを把握しているが、日中は自由に出入りできるようにしている。センサーマットは主治医の指示等を受けて転倒予防のために夜間のみ使用しており、使用することのリスクについて家族と一緒に検討を繰り返している。スピーチロック(言葉による行動制限)についても、調理中であれば火を止めて利用者の話を聴くようにするなどして防止に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人独自のマニュアルを職員全員に配布しており、活用している。施設内外の研修や学習会に参加し、職員間でも話し合い、意識防止に努めている。	毎年、事業所内外の研修会に職員が交代で参加し、不適切な対応が見過ごされないように努めている。職員にはストレスチェックを毎年行っており、管理者や職員間で様子を見て声をかけたり、必要な場合は個別に相談をうけている。不適切なケア場面が見られた際は、場所を変えて管理者が当該職員に助言を行うなど、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	地域包括支援センターより研修を行ってもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に納得、理解を頂いた上で契約を行っている。解約・改定の際は十分に話し合いの場をつくり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。利用者様からの要望は運営推進会議に参加してもらったり、ご家族様面会時や日常生活の中で伺ったことは『苦情要望受付書』に記載して職員全員が確認、対応している。	日常生活の中で把握した利用者の要望は、苦情要望受付書に記載し、その実現にむけて職員が対応を検討・計画している。枝豆を収穫した後に「ビールが飲みたい」と要望があれば、ノンアルコールビールで対応するなどしている。家族からは、訪問時のやり取りの中で要望を聞いて出来るだけ対応している。意見箱を玄関に設置したり、運営推進会議へも都合がつかう家族にいつでも参加してもらえるように声をかけ参加してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会やカンファレンス、日々の業務において職員から提案や意見を出し合い検討し、運営に活かしている。	職員用の意見箱が併設の施設に設置され、無記名で寄せられた意見は法人本部へ届く仕組みになっており活用されている。事業所内では、会議の前にはあらかじめ職員が管理者に伝えたいことをメモ書きしてもらい、職員の意見や要望を反映させる工夫をしている。普段から、管理者は職員の声聴き、必要があれば、上司に直接伝えるよう助言したり、管理者から上司に伝えるなどしている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いの仕事についてのサポートしたり、それぞれの問題点や悩みを聞き、仕事内容を改善している。個々の職員の能力に応じて業務の分担も行った。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対する研修を施設全体で行っている。また、施設内外の研修にも参加しスキルアップにつなげている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウイルス感染防止のため交流は中止となっているが、運営推進会議に近隣のグループホームに参加をして頂き、交流を図っている。小規模多機能の運営推進会議にも参加させていただいている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規受け入れ時には、ご自宅へ伺いご本人の意向をゆっくり伺い信頼関係を築いている。また、ご本人とご家族にホームに来ていただき不安や困りごとを伺っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規受け入れ時には、ご自宅等へ伺い状態などのお話を聞く時間をもち面接を行っている。また、ご本人と一緒にホームに来ていただき不安や困りごとを伺っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状態確認の連絡を行い現状の把握、ケアマネ等へ連絡し「今」何が必要とされているか相談検討をおこなっている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔行ってきた経験や体験などを伺い、日々の生活の中で教えて頂き役立っている。		
19	(7-2) ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナウイルス感染防止のため面会は禁止となっているが、行事開催のお知らせと参加への声掛けを行う。ご家族の方々とお話しする中で、ご家族の状況も把握していく。相談や報告は随時させて頂く。利用者様からご家族へ暑中見舞いのハガキを送った。	現在はコロナウイルス感染防止のため中止しているが、定期的な面会や、運営推進会議やクリスマス会など行事への参加など、家族には必ず来てもらっている。利用者が携帯電話を持っている場合は電話で話してもらったり、行きつけの美容院への送迎を支援してもらったり、知人の訃報を新聞のお悔やみ欄で知った時は家族に香典を届けてもらうなど、家族とともに本人を支援している。今年は利用者が作成した絵手紙を家族へ送った。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、ゆっくり出来る場所の提供をおこなっている。現在はコロナウイルス感染防止のため面会は禁止となっている。	馴染みの人や場所について、入居申し込みの際に、本人・家族から聞き取ったり、面会に来た関係者からも情報を収集している。お墓参りや行きつけの美容院、知人が入所した施設など、職員が支援して出かけている。今年は絵手紙を利用者と職員と一緒に作り、家族や知人へ送るなど、関係が続くよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係も出来ており、お互いの部屋を歩き来したり、作った作品を皆さんにプレゼントする方も。トラブル発生時以外でも見守りに努めている。各自の食席にも配慮をおこなっている。職員がコミュニケーションの橋渡しをする時もある。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方でも、定期的ではなくとも利用者様と一緒に面会に訪れる事もある。相談等あればその都度対応している。退所した方から頂いた植木を大切に育てている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から個人の希望や思いを聞き、尊重に努めている。	担当職員が中心になり、入浴時に話をゆっくり聴いたり、食事の際の何気ない会話から思いや意向をくみ取ってアセスメントシートに追記し、カンファレンス時に職員で共有している。本人から言葉で引き出せない場合は、本人の表情や様子から判断して検討している。	
24	(9-2) ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所後でも、ご本人・ご家族・担当ケアマネ等から今までの生活状況を伺い、把握に努め役立てている。	センター方式のアセスメントシートも活用しながら、生活歴の把握に努めている。短歌を投稿していた利用者には個展を目標に制作してもらい、報道関係者の取材を受けたり、地域住民から足を運んでもらったりしている。また、ピアノを弾ける利用者には発表会の場を設け利用者全員に楽しんでもらう機会を作るなど、これまでの暮らし方を活かした支援をしている。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な気付きを話し合い共有し、記録に残し、日々の生活に反映させている。利用者様で1日のスケジュールを持っている人には、それに添うように努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を参考に担当職員と作成担当者が原案を作成し、担当者会議を行い、検討・確定している。	入居した際の新規の計画は、入居前の情報をもとに計画作成担当者が原案を作成し、1ヶ月の間、全職員でアセスメントを行ったのち、本計画を作成している。本人の言葉を大切にして毎日生活記録をつけており、計画更新の場合は担当職員と計画作成担当者がそれらの情報をもとに一緒に考え、担当者会議に利用者、家族の参加を得て検討をしている。モニタリングは毎月担当職員が行い、3ヶ月ごとの見直しを全職員で行っている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録、個別生活記録には時間を記入し、見やすい工夫を行っている。また、毎朝夕の申し送り時に情報の共有に努めている。生活記録のファイルに介護計画をコピーしたものを綴り、全職員が内容の把握と実践に努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化やご家族の要望に合わせて、その都度職員間で話し合い対応している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向かいの小学校から文化祭や運動会などの招待状が届き参加させていただいている。月に1回、地域の資源回収に参加している。現在はコロナウイルス感染防止のため交流を行っていない。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後、グループホームの協力病院での受診を希望される方には職員が付添い対応支援している。また、以前からのかかりつけ医を継続されたい方は利用者様とご家族の希望に添いおこなっている。	かかりつけ医については、これまでの医療機関の継続、事業所の協力病院への変更を、希望に応じて選択してもらっている。その際、事業所の協力病院は延命治療を行わないことも利用前に本人・家族に説明している。現在は、すべての利用者が事業所の協力病院をかかりつけ医とし、職員の付添いで受診している。協力病院の診療科目以外の外部の医療機関(眼科等)への受診時にも職員が同行し、医師に状況を伝えている。家族が受診に付添う場合は、医師に適切に情報提供ができるよう、事業所での状況を文書化して準備している。職員による受診付添後は、家族に手紙で結果を報告している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がみられた時は、併設特養の看護職員に相談、助言をもらっている。協力病院の看護師にも相談・助言をいただける体制となっている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を図り、ご家族の相談にも常に対応している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期についての方針を説明している。また、退所基準についても説明している。ご家族の意向に添った支援を基本としているが、グループホームの状況も説明、ご理解を頂き、そのつど書面等で相談させて頂いている。	「契約の終了又は解除と退所時の支援について」の文書を用いて、契約時に、重度化した場合や終末期の対応の在り方を説明している。状態の変化に応じてその都度、今後の相談を家族と行い、必要に応じて併設の特別養護老人ホームや他の有料老人ホーム等の紹介や移行の支援をしている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2) ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特養と合同で心肺蘇生法・AEDの講習会を年2回実施、参加している。応急手当については年間予定表に組み込み、行っている。また、急変時の対応は管理者が抜き打ち訓練をしている。	併設の特別養護老人ホームの看護師に講師を依頼し、止血の方法、簡易吸引機の使い方、感染予防等の研修を事業所内で計画的に行っている。併設の特別養護老人ホームで行われるAEDの取扱い研修に今後職員が参加する予定である。	職員が身につけるべき医療的知識や怪我・事故等の初期対応等に関する研修内容について、職員の意向や現状の習得状況もふまえて計画することが望まれる。また、心肺蘇生法、AEDなどについては、グループホームとしても繰り返し研修を重ね、職員一人ひとりが確実に実践力を身につけることを期待したい。
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養との災害時対策あり、グループホーム独自でも毎月、日中・夜間を想定して行っている。(火災・地震・水害時の避難訓練)また、非常食の消費期限が迫ったころに災害時を想定して非常食訓練として食べている。	毎月、水害・火災・地震・停電を想定した訓練を行っている。職員にもあらかじめ伝えず、抜き打ちで訓練を行って実践力を身につけている。運営推進会議メンバーの参加も得て訓練を行い、協力体制を築いている。利用者が自力で移動が困難な場合も想定して事業所内に特殊寝台を1台置き、それを使用して移動できるようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に添った援助方法で対応。居室に入るときはノックし、利用者様の了解を得て入室している。個人情報書類は鍵のかかる所で保管している。	居室へ入るときはノックをして了解を得てから入り、利用者の呼び方は本人が慣れている入居前の呼び方を継続している。言葉遣いも尊敬の気持ちを忘れずに、場面に応じて使い分けながらコミュニケーションを図っている。排泄介助の際の声掛けもプライドを傷つけないように配慮している。個人情報を含む記録物は鍵のかかる場所で保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示や選択が行い易いように声掛けを行い、選んで頂いている。また、職員とも何でも言いやすい関係を築けるよう日々寄り添い、日常生活の中からも希望をくみ取り実現に努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は午前中から行っており、利用者様にあったペースで入浴して頂いている。散歩等希望される方にはそのつど付き添い支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの美容師さんに来園してもらい希望した髪型にしてもらっている。地域の理容店に出掛ける方もいたが、現在はコロナウイルス感染防止のためボランティアさん来園できないので、職員がヘアカット行っている。女性の利用者様で希望がある方には眉を描いたり口紅を塗るなどメイクの手伝いをしている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握しメニューに反映している。調理の下ごしらえ等出来るところは一緒に行っている。また、リクエストがあればメニューに取り入れている。月1回『美食クラブ』として季節のおやつを作り、楽しんで頂いている。	カロリーや栄養バランスに考慮してあらかじめ作成した献立をもとに、頂きものの野菜や旬の食材を取り入れながら、利用者と相談して献立を変更・追加するなどしている。「美食クラブ」の活動として、おはぎや黒糖まんじゅうなどおやつを手作りしたり、畑で採れた枝豆とノンアルコールビールで飲む機会を計画したり、テイクアウトのハンバーガーを食べるなど、コロナ禍で外食はできないが、工夫をして「食」を楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の持病や状態にあったメニューを提供している。食事量・水分量をそれぞれチェック表に記入し低下されていた方には補食等で多く摂って頂けるように配慮している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣としている。その方の状態に応じ、歯ブラシの他に舌ブラシを使用している。自らができない方には職員と一緒にやっている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様に合った声掛けをこまめに行い、トイレに行かれた時は付き添いを行っている。排泄チェック表により管理している。	利用者個々の排便、排尿の状況について、チェック表で色分けして管理している。リハビリパンツへ安易に移行しないように、普通の下着と尿取りパットを使用してトイレへ通う回数を増やしたり、自分でパット交換できる方には交換した汚れたものを決まった容器に入れてもらうなど、自立に向けた支援をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にバナナや乳製品を提供したり、水分補給を重視している。便通により食べ物を毎日の食事に取り入れるようにしている。朝食後にラジオ体操を行い体を動かしている。利用者様の希望に応じ歩行訓練を取り入れている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の習慣や希望に合わせて入浴している。ゆっくりと時間が取れるように配慮し、状況により清拭、更衣も実施している。湯あたりした方には入浴前の血圧チェックと湯船に浸かる時間をストップウォッチで計り注意を促している。	週2回の入浴を基本としつつ、利用者の希望に応じて朝風呂や、午後も入浴できるように支援している。入浴前に血圧を測定して入浴時間を調整したり、脱衣室の室温管理も利用者の好みに合わせてこまめに調節している。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じてもらえるようにしたり、入浴剤も気分転換に使用している。入浴を好まない利用者には時間や曜日を変えて対応している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるが、利用者様の希望によってはテレビを見ていただく時もある。好きなテレビドラマがある日は遅くまで起きている方もいる。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の内容を個別ファイルで管理し、いつでも確認することができる。頓服薬についても朝夕の申し送り時に伝え、介護日誌にも記録している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みでいつでもお茶やコーヒー等飲んで頂いている。歌の好きな方にはCDやDVDを楽しんで頂いたり、畑作業・編み物・ピアノが得意な方には職員に教えてもらい、張り合いを持ちながらやって頂いている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、ドライブ等、日常的に外出している。いちご狩り、足湯ツアーなどにも出かけた。毎月、行事を企画し外出の機会を作っている。ご家族が参加できる場を設けている。現在はコロナウイルス感染防止のため外出は中止している。	現在はコロナウイルス感染防止のため外出行事は中止しているが、園庭にある桜で花見をしたり、玄関前のスペースでお茶の時間を過ごしたり、畑や敷地内の散歩に出かけている。天候の悪いときは併設の特別養護老人ホームの廊下や階段を散歩コースとして歩いている。コロナ禍以前はボールペンや色鉛筆を買いに出かけたり、食材の買い物に利用者が順番に出かけていた。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人所持は行ってない。ご家族の了解にて施設で定額を管理し、日常生活に必要な物や利用者様の欲しい物はその中から購入させて頂いている。毎月レシートをつけて預り金報告を行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおり、自由に使ってもらっている。他の方も希望があればいつでも電話をかけたり手紙を書いたりする支援はおこなっている。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々を植え、季節を感じられるようにしている。季節にあった小物等で飾り付けを行っている。一緒に飾り付けを行うことで季節感を感じて頂いている。	利用者がひと休みできるような玄関と廊下の奥にソファを設置し、広い廊下には適宜手すりを設置している。共有空間には「まゆ玉」をつるす枝を飾り、季節に応じて柿をつるしたり、天井からはつるしびなを飾ったり、絵手紙等の利用者の作品を掲示するなどして、利用者の目を楽しませている。カレンダーにも利用者と一緒に手作りのススキの飾りをつけ、季節感を感じられるようにしている。建物は年数を経ているが古さを感じさせず、掃除や鉢植えの手入れも行き届き、清潔感が感じられた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き利用者様の所定の場所やお気に入りの場所がある。また、ホームの東西にソファを設置し、利用者様の談話の場となっている。		

己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されている家具等、慣れ親しんでいるものを持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるようにして頂いている。	居室にはベッド、布団、クローゼット、洗面台が備え付けられているが、自宅で使用していた毛布やタオルケット、また、お茶碗・お箸、タンス、掛け軸などを持ち込んでもらっている。居室へのテレビの設置も自由にできるが、なるべく居室にはテレビを置かず、共有スペースで他の利用者と一緒に過ごしてもらうように働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の意欲を踏まえたなかでの支援を心掛けている。各居室の入り口には大きく名前を掲示し、分かりやすいようにしている。トイレや浴室も分かりやすい言葉で工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				